

自然の息づかいを感じて... 四村地区

花と緑と清流の山里へ



旧上中小学校(平成7年3月閉校)の桜



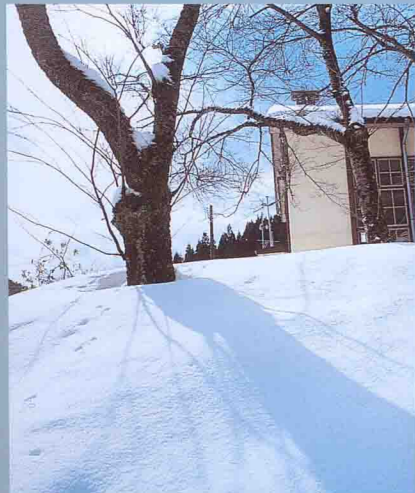
やわらかな春風に草木が目覚める



キリシマが咲く峨山道



花々が山里に季節を告げる



静寂におおわれる白い季節



昔ながらの風景が残る上中集落



清らかな水が流れ落ちる滝谷滝

穴水町の西部、八ヶ川の水源地域に、北に大角間、南に越渡、東に桂谷、西の台地上中の四つの集落が集まっているのが四村地区。一帯は周囲を山に囲まれた谷間になっており、今も茅葺き屋根の民家が残る集落の風景は、懐かしい日本の原風景を思わせる。

かつては林業で栄えた四村地区にはアテを含む自然林が多く、平成元年からその豊かな自然資源を利用した新しい村づくりが進められてきた。テーマは「花と緑と清流の山里」。春から初夏にかけて、各戸こそって栽培したササユリとノトキリシマが競うように色鮮やかな花を開き、みずみずしい新緑に美しく照り映える。

せせらぎの音を澄まして古道をたどれば、路傍に苔むした石標。鎌倉時代に曹洞宗の僧・峨山和尚が羽咋の永光寺から門前の総持寺へ通う道しるべとした峨山道石標で、往時をしるびながら散策するのも趣深い。

かぐわしい花の香りと目にまぶしい木々の緑、そして心を癒すせせらぎの音や野鳥のさえずり、いにしへの歴史の面影。四村地区には、現代社会がどこかに置き忘れてきた深いやすらぎがある。